

# 環境科学調査センター

だより

Vol.49  
2024.7



しらべる  
名古屋市の川で  
めずらしい藻が見つかりました!

つたえる  
「かんきょう実験スクール」を開催します



夏休みの自由研究にどうぞ!

## かんきょう実験スクール

身近な“かんきょう”について、当センターの研究者と一緒に実験・体験する「かんきょう実験スクール」を開催します

参加費  
無料

日程 令和6年 7月31日(水)、8月1日(木)、8月2日(金)

時間 9:30から12:00まで 場所 名古屋環境科学調査センター(南区豊田五丁目16番8号)

対象 小学校4~6年生

定員 各回24人(事前申込み抽選、当選結果は7月24日(水)頃お知らせします)

申込方法 ①氏名、②住所(区まで)、③学年、④参加希望日、⑤電話番号、⑥メールアドレスを添えて、「二次コード・電話・FAX・メール」のいずれかでお申込みください。

申込みはこちらから可能です!



・登録者がいた場合、登録した方の中から再抽選を行います。

・ひとつの講座でも、複数の講座でも、抽選のお申込みが可能です。

・お友達同士やご兄弟など(小学校4年生から6年生が対象)のグループでの申込みも可能ですが、1グループ3名までとします。グループ申込みの場合、お申込みされる代表者1名とほかに参加される方の氏名等もあわせて、ご記入ください。

・抽選の公平性を保つため、ひとつの講座に対する申込み回数は個人・グループ含め、ひとり1回までとします。ひとつの講座に対して、個人・グループに問わず、2回以上申込みをした場合、2回目以降は抽選が無効となります。

注意

申込み切 7月22日(月)

### 講座内容

7月31日(水)  
太陽の力で  
回せ!風車!

太陽の力だけで風車を回してみよう。電池もモーターもないのになぜ回るのかな?太陽光エネルギーについて学んでみよう!



実験内容の紹介動画はこちら!

8月1日(木)  
何色に変化する?  
色で見える雨の汚れ

身近に降る雨は、どれくらい汚れているのかな?まずは、酸性・アルカリ性について実験を通して学び、実際に降った雨の汚れを調べよう。



実験内容の紹介動画はこちら!

8月2日(金)  
プランクトン  
万華鏡を作ろう☆

池の中には目に見えない小さなプランクトンがたくさんいるよ!お気に入りのプランクトンをスケッチして、自分だけの万華鏡をつくっちゃおう☆



編集・発行 | 名古屋環境科学調査センター

〒457-0841 名古屋南区豊田五丁目16番8号

TEL 052-692-8481 FAX 052-692-8483

電子メール ac928481@kankyokyo.city.nagoya.jp

ホームページ 名古屋公式ウェブサイト(www.city.nagoya.jp/)から

環境科学調査センター サイト内検索

当センター  
YouTubeチャンネルで  
動画公開中 >>>

当センターInstagram  
アカウントにて業務や  
イベントの情報を発信中 >>>



しらべる

# 名古屋市の川でめずらしい藻が見つかりました!

## 名古屋市の川の生きもの調査

名古屋市の川には魚、エビ、貝、昆虫など様々な生きものがくらしていますが、何種類の生きものが見つかったのでしょうか? 環境科学調査センターでは1981年度から市内の川や市内の池にくらす生きもの調査を行ってきました。2023年度までの調査で、250種類ほどの生きものが名古屋市の川から見つかりました。[名古屋市の川]と一口にいても、東郷丘陵地周辺の淡水域から、川と海の水が混ざる汽水域といった環境まであり、それぞれの環境に適応した多様な生きものがくらしているのです。

## 名古屋市の川にくらす藻のなかまたち

名古屋市の川には、様々な藻もくらしています。藻は、川の中で光合成<sup>※1</sup>をして有機物や酸素を作りだすだけでなく、ほかの生きものエサやすみかになるなど、生態系の中で重要な役割を果たしています。藻は、顕微鏡でしか姿が見えないほど小さい「微細藻」と、肉眼でも見えるほど大きくなる「大型藻」の2つに分けられます。微細藻は主にプランクトンとしてたため池や海など様々な環境にくらしています<sup>※2</sup>。一方、大型藻は、私たちの食卓によく並ぶワカメやコンブといった、海にすむ「海藻」のなかまが有名です。大型藻は、川でもみられまが、これらの多くはすみかの減少に伴いその数を減らし、絶滅の危機にあります。種類によっては環境省等が作成するレッドリスト<sup>※3</sup>の絶滅危惧種(表1)に指定されており、近年特に注目されています。

2023年度に実施した生きもの調査において、名古屋市の川に、実は様々な大型藻がくらしていることがわかりました。今回はこの調査で見つかっためずらしい藻を紹介いたします。

※1 光合成: 光のエネルギーを吸収して、水と二酸化炭素から酸素(有機物)と糖素を作るはたらきのこと。  
 ※2 たため池のプランクトンについては、環境科学調査センター「たため池の生物多様性」に詳しく解説しています。  
 ※3 レッドリスト: 絶滅のおそれのある野生生物の種のリストのこと。

表1 レッドリストのカテゴリ

カテゴリ	説明
絶滅	EX 我が国ですでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態のみで維持している種
絶滅危惧IA類	CR ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧IB類	EN IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類	VU 絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧II」に移行する可能性がある種
情報不足	DD 評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群	LP 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

環境レッドリスト(2020)より引用

## 名古屋市の川で希少な生きもの、発見!

今回の調査で見つかったのは、アヤギヌ(図1・2)とホリアアヤギヌという2種類の藻です。アヤギヌとホリアアヤギヌはどちらも、環境省や東京都・愛媛県・沖縄県などの自治体のレッドリストに掲載されており、自治体によっては絶滅危惧種に指定されています(表2)。

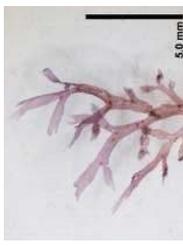


図1 アヤギヌ

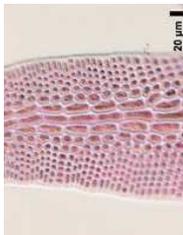


図2 アヤギヌの光学顕微鏡写真

アヤギヌのなかまは、河口やマングローブ林といった汽水域にくらす藻で、写真の黒い線は左に書かれた長さを示す。μm(マイクロメートル)は0.001 mm。

Caloglossa (ラテン語で美しい「calo」+舌「glossa」の意)という学名をもちます。舌のような形をした葉を光学顕微鏡で見ると、多数の細胞が規則的に並んでおり(図2)、「美しい舌」といえますね!

アヤギヌのなかまは、庄内川や新川の河口域などに広がる「ヨシ原(図3)」のヨシの根本に生えているのが確認されました。河口域にくらすアヤギヌのなかまは、他の生きものエサやすみかとなります。特に、名古屋市では絶滅の危機にあるエンスイミズメイガというガの幼虫が、アヤギヌのなかまを葉として使うことが知られており<sup>※4</sup>、名古屋市の生物多様性を保全するうえで重要な役割をはたしています。

アヤギヌのなかまは、ヨシ原だけでなく、コンクリート岸壁などの人工的な構造物の上にも多く見られ(図4)、山崎川や堀川、高川の住宅街や大きな運に囲まれた河口域といったエリアにおいても、これらの藻がくらしていることがわかりました。

※4 レッドデータブックなごや2015 動物編。



図3 アヤギヌのなかまのくらす環境(ヨシ原)



図4 アヤギヌのなかまのくらす環境(コンクリート岸壁)

表2 アヤギヌのなかまの指定状況

作成年	アヤギヌ	ホリアアヤギヌ
環境省: 2020	準絶滅危惧	準絶滅危惧
千葉県: 2023	重要保護種*	要保護種*
東京都: 2020	-	準絶滅危惧
大阪府: 2014	-	準絶滅危惧
兵庫県: 2020	Bランク*	-
愛媛県: 2021	絶滅危惧I類	絶滅危惧I類
福岡県: 2011	準絶滅危惧	-
長崎県: 2022	準絶滅危惧	-
宮崎県: 2020	準絶滅危惧	-
鹿児島県: 2014	準絶滅危惧	-
沖縄県: 2018	準絶滅危惧	-

\*各自治体独自のカタゴリー

## ネイチャーポジティブの実現に向けて

今回の調査では、アヤギヌのなかま以外にも、今まで名古屋市で見つかったなかった藻のなかまが複数確認されました。藻のなかまは、キレイな花を咲かせるわけでもなく、魚や鳥のように知名度が高いわけでもないため、注目を浴びづらい生きものなのです。ですが、ほかの生きものエサやすみかとなったり、光合成をおこなうことで空気中の二酸化炭素を吸収するなど、自然の下の力持ち<sup>1</sup>といえる存在なのです。

生物多様性の損失を止め、回復させる「ネイチャーポジティブ」が生物多様性の新たな世界目標となり、その実現に向け、本市でも2023年10月に「なごやネイチャーポジティブ宣言」を行いました。ネイチャーポジティブは、地球規模で取り組まなければならない重要な課題ですが、その実現のためには私たちの身近な環境に「どんな生きものがどれくらいらしているのか?」という土台となる情報が欠かせません。今回の調査では、名古屋市にはまだまだ私たちが知らないうちに、生きもの調査を続けていきたいと思います。皆さんもぜひ、これを機に身近な環境にくらす生きもの声に耳を傾けてみてください。次に名古屋市の希少な生きものを発見するのは、これを読んでいるあなたかもしれません...



執筆者 環境科学室 福岡裕之